

卒業生の言葉

厳しい冬の寒さも徐々に和らぎ、木々の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。本日、お忙しい中、ご臨席くださいました皆さま、誠にありがとうございます。

いま思い返してみると、中央聴覚支援学校高等部で過ごした三年間は、あっという間でした。入学当初は、緊張がなかなか解けず、毎日が不安でいっぱいでした。戸惑うこともありました。先輩方や先生方に優しく導いていただき、新しいスタートを切ることができました。

私たちの学年は、自分たちで多くの行事を企画し取り組んできました。

1年生の校外学習では神戸の防災センターや南京町の散策をしました。大雨だったのも今となっては良い思い出です。2年生では歩いて大阪城へ行き平和学習に取り組み、3年生では電車でコリアンタウンに行きました。外国の文化に触れ、視野を広げることができました。

修学旅行では、国会議事堂で社会参画の重要性を学びました。原宿ではクレープを食べながら散策し、ディズニーランドではたくさんのアトラクションに乗りました。おそろいのカチューシャをつけて、みんなで楽しい時間を過ごしました。自分たちで企画し、実践できたことはよい経験になりました。

また、毎日、給食の時間にたくさんのお話をしたことや、日々の授業でそれぞれが努力し、成績の向上や理想の進路の実現という形で表せたときの喜びは一生忘れられません。

これまで私たちを支えてくださった先生方、家族の皆さま、そして仲間たち、多くの存在があったからこそ、今日の日を迎えることができました。これから私たちはそれぞれ異なる道へと進んでいきます。新しい環境では、また壁にぶつかることもあると思います。しかし、この三年間で培った学びと感謝の気持ちを胸に自分らしく前へ進んでいきたいと思っています。

在校生の皆さん、伝統あるこの中央聴覚支援学校を誇りに思い、皆さんが素晴らしい歴史を引き継いでくださることを願っています。

最後になりましたが、この学校と出会えたこと、そして支え続けてくださったすべての方々に心から感謝して、卒業生の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

令和8年 3月 3日
卒業生代表